

## 1. コンピテンシー分析及び課題研究に関する生徒アンケートの分析

平成 29 年度入学生 (SGH2 期生) における SGH 事業の成果、評価

### (1) はじめに

本校は、平成27年度末に文科省に提出したSGH構想調書において、育成したい資質・能力として、①課題を発見し向き合う力、②論理的・批判的に思考する力、③協働して課題を解決する力、④情報を発信する力、⑤英語で伝える力、⑥グローバル社会に貢献する高い志の6つを掲げている。そこで、29年度入学生が高校3年間でこれらの6つの力をどれだけ伸ばすことができたか、その成果を検証した。

### (2) 研究開発成果の検証、評価方法

成果の検証・評価には、(ア)本校入学時、(イ)高1年2月、(ウ)高2年2月、(エ)高3年1月の計4回実施した生徒対象アンケートを利用した。このアンケートは、上記の6つの力に関する計39項目の質問が設けられており、その肯定的な回答の割合をまとめ、生徒からの主に課題研究に関する事業への評価とした。その結果が次の図表1、図表2である。

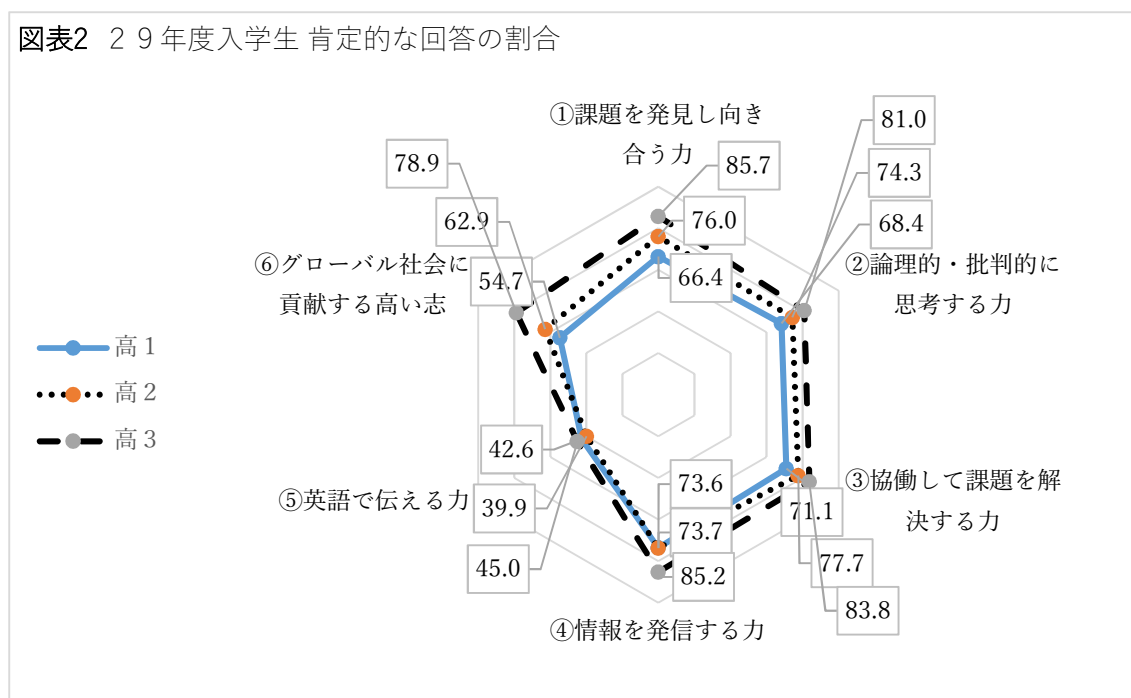
図表1 29年度入学生 肯定的な回答の割合 (%) の推移 (回答数 143)

佐高SGHが伸ばしたい6つの力	高1	高2	高3	3年間の伸び率
	2018.2月	2019.2月	2020.1月	
①課題を発見し向き合う力	66.4	76.0	85.7	+19.3
②論理的・批判的に思考する力	68.4	74.3	81.0	+12.6
③協働して課題を解決する力	71.1	77.7	83.8	+12.7
④情報を発信する力	73.6	73.7	85.2	+11.6
⑤英語で伝える力	42.6	39.9	45.0	+2.4
⑥グローバル社会に貢献する高い志	54.7	62.9	78.9	+24.2

⑤英語で伝える力※	63.0	71.7	72.7	+9.7
-----------	------	------	------	------

※143名のうち、海外グローバル研修や校外コンテスト等の英語プレゼン参加者45名

図表2 29年度入学生 肯定的な回答の割合



### (3) 6つの力全体として

⑤「英語で伝える力」を除く他の5つの力については、1年時から年ごとに六角形が大きくなり、また形も正六角形により近づいていることから、SGH 事業から生徒が感じた能力の伸びが年々高まり、SGH 事業は昨年度同様に一定の成果を挙げることができたと総括できる。

#### (4) ①課題を発見し向き合う力

図表3 28年度入学生 肯定的な回答の割合(%)の推移

佐高SGHが伸ばしたい6つの力	高1	高2	高3	3年間の 伸び率
	2017.2月	2018.2月	2019.1月	
①課題を発見し向き合う力	69.6	→ 76.9	→ 76.0	+6.4
②論理的・批判的に思考する力	72.0	→ 77.4	→ 75.3	+3.3
③協働して課題を解決する力	70.2	→ 72.5	→ 80.8	+10.6
④情報を発信する力	77.7	→ 71.0	→ 85.7	+8.0
⑤英語で伝える力	40.5	→ 32.9	→ 39.9	-0.6
⑥グローバル社会に貢献する高い志	65.5	→ 69.4	→ 78.4	+12.9

右の図表3はSGH初年度卒業生である28年度卒業生の高校3年間の推移である。28年度入学生と29年度入学生とを比較した時、この項目は28年度入学生の伸び率は6.4ポイントであるのに対し、29年度入学生は図表1にあるとおり19.3ポイントであり、この1年で本校のSGH事業の改善が数値上に最も表れた部分といえる。29年度入学生は、1年次に取り組んだ課題研究を、引き続き継続研究として2年時に繋げるという生徒が増え、学年を跨いで息の長い探究活動が実現できた。

29年度入学生は、1年次に取り組んだ課題研究を、引き続き継続研究として2年時に繋げるという生徒が増え、学年を跨いで息の長い探究活動が実現できた。

#### (5) ②論理的・批判的に思考する力

生徒は自分の能力の伸びを肯定的に実感できている。若山昇教授の作成した論理的思考力テストでも伸びが数値で表れており、生徒の自己評価はこの項目でも客観的で妥当性のあるものであるといえる。

#### (6) ③協働して課題を解決する力

28年度、29年度入学生に共通して、6つの力のうち本校SGHの成果が数値上に最もよく表れた項目の一つである。本校SGHの特色の一つである、学年生徒の一部ではなく全員を対象に、かつ全員がチームで研究に取り組んできた成果であるといえる。

#### (7) ④情報を発信する力

「人前で発表する力があがった」「まわりに自分の意見を伝えようという姿勢は身に付いた気がする」などと、SGH活動へ肯定的な回答が目立った。一方で、生徒全体のパワーポイントのスキル向上や、今後Skypeの導入・活用を提案する意見もあった。

#### (8) ⑤英語で伝える力

29年度入学生143名全体で見ると、最も低い数値となっているが、カナダへの高1海外グローバル研修参加生徒や校外における英語を使ったSGH課題研究成果発表の代表生徒等の45名だけを選んだ集計した結果は他項目と比しても概ね良好な結果となる。この学年は高2時の修学旅行の際に台湾における高級中學での課題研究発表(英語によるプレゼンの予定)が、実現できなかったという事情があった。

#### (9) ⑥グローバル社会に貢献する高い志やチャレンジ精神

28年度入学生、29年度入学生に共通して最も伸びた項目であり、かつ高校3年間のうち、特に高3になって伸びているという共通点がある。高3において「私の学び報告書」「私の学び計画書」の作成、それらをまとめた「シンカ宣言」の執筆に取り組み、これまでの自分の取り組みを振り返る機会とする本校SGHのカリキュラムは効果的であったと考えられる。

## (10) 自由記述 SGH諸活動をより有意義にする改善点を提案してください

### 1. 学校の諸活動を、SDGs(持続可能な開発目標)の視点から見直す

現状を考えると、ちょっとした研究やディベートに親しんだりしているものの、普通の高校を脱することはできていないと感じる。SGHクラブの活動を終えてから特にそれを感じる。都会の私立高のようなSGHの取り組みは難しいと思うが、例えば学校祭のテーマにエコを取り入れたり、ごみ処理について深く考えるなど、SGHならではの活動をベースにした学校にすべきである。そのようなSGHであることをもっと全面に出した上で「SGHだから佐高に入りたい」と本気で思えるような人が入学するような学校になることを望んでいる。

### 2. 地域の人材など外部との連携を強化する

もっと教授や専門家、県内外のSSH、SGH校と連携や積極的な交流を持つとよいと考える。多角的な批評を受けることで、新しい考えが生まれやすくなるだろう。より良い研究にするために先行研究を調べることは必須である。そのために文献調査の方法や情報の集め方をきちんと指導する必要があると思う。／課題研究についてはもっと先生方からの専門的な指導があるとよいと思う。／SGH専門の人をたくさん学校に呼んで、生徒にいろいろな考え方を学ばせる。／他の学校のSGHは私達よりもはるか上の研究をしています。知識の差が大きすぎる。／地元地域など、校外の団体・組織と協力をすること。／SGH活動により励むためにはFWなど外部活動も重要だと思う。

### 3. 学年ごとの引き継ぎ、研究の継承を強化する

高1が高2の研究を引き継ぐことができるように、質問があったり、今後の課題を伝えられるような時間があると、よりよい研究になると思う。／先輩達がやってきた研究内容(の引き継ぎ)があるととてもよいと思います。／課題研究は1、2年で分野を変更するのではなく同じ分野を継続研究し続ける方がより深く、とことん理解することができると思う。

### 4. ディベートの一層の改善に向けての提案(高校3年時にもディベートが欲しい等)

課題研究のやり方やディベートのやり方を1年時のときにもう少し初歩的なことをしっかり学んだ上で活動をはじめると、得意な人とそうでない人との差が縮まり全体のレベルアップにつながると感じた。／教科の授業ペースをもう少し速めて高校3年時にもディベート等で深く考え、意見を主張する機会がほしい。／ディベートについてももっと練習・準備を行ってから試合に入るべきだと思う。／1年時にいきなり英語でやるのは大変でした。／ディベート以上に発展的で建設的な他領域のグループとのディスカッションを積極的に行う。

### 5. 課題研究の進め方についての提案

#### (1)もっと時間を増やす

SGH校と言われているので週に1～2時間程度ではSGH活動をしているとは言えないと感じた。せめてあと1時間増やせるとよいと思う。／SGHの時間が増えるとより深い研究ができそうだった。／総学の時間に校外にFWに行けるようになればもっと積極的に研究をすることができる。研究に熱心な人とそうでない人が班の中にいて仕事量にも温度差が生まれてしまうためできるだけ少人数の班にし全員に役割を与えたほうがよいと思う。／全体的に取り組む時間が短いと感じたため、話し合いの時間がもう少しあると良いと思う。

#### (2)テーマ設定に十分時間をかける

1年時にテーマを決めることに力を入れて欲しいと思った。そうすることによってテーマ設定の理由や将来の目標を自分の言葉でプレゼンすることができると思う。／細かな興味のベクトルのずれによって班が機能しなくなることもあったため、初めは自分が何をしたいのかをよく考えられる何らかの活動があってもいいと考える。／1年時の課題テーマ探しにもっと時間をかけるべきじゃないかと思った。

#### (3)発信力について

英語で伝える力を伸ばすために英語でのプレゼンテーションの機会を増やす。／発表の時に校内で発表するのではなく佐野市の施設などを借りて一般の人にも公開するようにする。／課題研究の忙しい時とそうでない時との差が大きいため発表などを定期的に行った方がよい。

#### (4)チーム協働について

仲の良い人どうして固まりすぎると妥協しちゃう気がした。／課題研究はやりたい人だけに予算を回した方がいい研究になるし、国からの金も無駄金にならない。やる気のない人にやらせたところで、そういう人がグループの中に入るとそのグループがかわいそう。／SGHの活動は全員がやるのではなくやりたい人だけがやるべきだと思います(課題研究)。／部活動やプレゼン準備などを考えると時間が厳しいと感じた。全ての生徒がSGHに賛成という訳ではないためそういう人に(チームのみんなと)協力してもらうにも限界があった。

#### (5)その他

全員がパソコン、PPなど最低限のことができるようにすべきだと感じた。／タブレットを廃止し、その費用を海外班に回す。／SGH国内班の休止、海外活動に着手すべき。／現実的に考えて高校生の活動範囲では厳しそうなのは避ける。パソコン室の使用時間を他学年とずらす。そうでないと使いたいグループが十分使えない。